

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	環境局環境監視部環境監視課
評価対象期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市響灘ビオトープ	施設類型	目的・機能
	所在地	若松区響町一丁目 126 番 1 号及び二丁目		
	設置目的	北九州市響灘ビオトープの貴重な自然環境を保全するとともに、生物の多様性の確保、その他自然環境の保全に関する学習及び交流の場を提供し、自然と共生する社会の実現に資すること		
利用料金制	非利用料金制 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制			
	インセンティブ制	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	ペナルティ制	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
指定管理者	名 称	響灘ビオトープ共同事業体		
	所在地	北九州市若松区ひびきの 1 - 1 北九州市立大学国際環境工学部内		
指定管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none">・ 施設の利用許可に関する業務・ 利用料金の徴収に関する業務・ 施設の維持管理に関する業務（清掃、警備、安全管理、草刈、軽微な修繕等）・ 施設の運営に関する業務（ガイド、広報宣伝、エコツアー等イベント企画運営等）・ ビオトープの自然環境の保全に関する業務・ 自然環境の保全に関する学習及び交流の場の提供に関する業務・ その他苦情対応等			
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント				
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				
(1) 施設の設置目的の達成				
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。				
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。				
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。				
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。				
【所見】				
①目標の達成				
◎来園者数・ガイドツアー参加者数				
<p>「来園者数」については、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大防止のための臨時休園や、それに伴うイベント中止等が大きく影響し、要求水準には達していない（-30.1%）。しかし、緊急事態措置等による臨時休園期間については、令和2年度が31日間、令和3年度が82日間であり、年間営業日数が減少したにも関わらず、来園者数は令和2年度を上回る結果となった（+5.9%）。</p> <p>特に10月の来園者数（1,815人）は、コロナ拡大前の令和元年度の前月の来園者数（1,681人）も上回っている。コロナ対策を徹底した上で、他施設との連携事業や新規イベントを行う等、コロナ禍においても要求水準に少しでも近づけるための取組みを積極的に検討・実施する姿勢は評価できる。</p> <p>来園者に対して、職員が園内の動植物について解説しながら園内を案内する「ガイドツアー参加者数」についても、来園者数と同様に要求水準を下回った（-39.9%）。来園者数と同様に、コロナ拡大による影響を受けており、環境アクティブラーニング等の学校利用を含む団体の来園の減少等が影響している。</p> <p>一方で、主催事業のプログラムの中でガイドツアーを取り入れ、団体以外にもツアーを充実させる等、要求水準に少しでも近づけるための方策を検討した結果、令和2年度の実績を上回っており（+11.2%）、努力が伺える。</p>				
【来園者数（単位：人）】				
年度	H30 (前指定管理者)	R1	R2	R3
要求水準		18,000	18,000	18,000
実績	16,061	19,784	11,879	12,576
【エコツアー（ガイドツアー）利用者数（単位：人）】				
年度	H30	R1	R2	R3

	(前指定管理者)			
要求水準	4,000	4,500	4,500	4,500
実績	4,659	4,987	2,432	2,704

◎園内生物の生息状況の把握、希少種保全及び外来種の駆除等

毎月1回、野鳥の観察、写真による記録を行うほか、専門家やボランティアスタッフと協力しながら、鳥類、水生昆虫等の調査を行ってデータを収集し、継続的な生息状況の把握に努めている。

希少種の保全に関しては、チュウヒの年間を通じた個体観察や飛翔行動、営巣の確認等、有識者と連携して保全に取り組んでいる。また、活動継続のため、外部資金獲得の申請をする等意欲も伺える。ベッコウトンボについても、頭数調査や採卵した卵の孵化・人工飼育等を関係団体と協力して行い、継続した生態把握に努めており、平成30年度まで減少傾向にあった頭数は年々回復傾向にある。

外来種の駆除に関しては、園内で多く生息が確認されているスクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）とウシガエルについて、コロナ対策を行いながら学生ボランティア等と協働で駆除に取り組んでいる。特に、ジャンボタニシについては、飼料化に関する学術研究や、捕獲機の研究開発にも積極的に協力を行っている。

また、公開区域の園路確保やビオトープの生物多様性の確保・維持のため、意欲的に植生管理を行っている。特に、草刈りについては、低草を好む渡り鳥の繁殖呼び込みや入園者の散策性向上を目的とし、季節毎の野鳥の飛来状況に配慮しつつ、エリア毎に実施しており、計画的に行っている点は評価できる。

湿地保全では、ヒメガマの伐根時期を独自に工夫するとともに、職員自らが管理を行えるように専用のトラクターや除草機を備える等、ベッコウトンボ等の希少種を含む水生昆虫類の生息環境の維持にも努めている。

【響灘ビオトープにおける調査一覧】

調査項目	協 力
鳥類調査	響灘ビオトープ愛好会、日本野鳥の会
水生昆虫調査	福岡県立北九州高校 魚部
トンボ類調査	日本トンボ学会

【希少種保全・外来種駆除の取組み一覧】

取組み	対 象	内 容
希少種保全	チュウヒ	3番池における行動観察、営巣状況の確認
	ベッコウトンボ	孵化・給餌等の人工飼育
外来種駆除	スクミリンゴガイ	・青少年ボランティアステーションによる捕獲 ・捕獲機の試験捕獲
	ウシガエル	北九州高校魚部とともに捕獲（オタマジヤクシ）

②利用促進のための取組み

◎イベントの開催

来園者増の取組みとして、幅広い世代を対象とし、季節に応じた魅力あるイベントを積極的に実施している。1回当たりの参加者数の制限等、コロナ対策を行った上での開催となったが、開催数は49回で、前年度37回より開催数は増加している。

夏季の「池に入ってわくわく生き物探し」では、1番池の一部を開放し、子どもが保護者と一緒に自然と直接触れ合う機会を創出している。令和3年度は、実施時期が臨時休園期間と重なり期間が限られたが、利用者の好評を得ており、リピート来園にもつながっている。

冬季は、気候を考慮し、屋内型のクラフト教室を中心に集客に励み、自然素材を活用した「植物万華鏡作り」や「染物体験」等も開催している。

また、新たな取組みとして、草原に入って生き物を観察する「草原でどきどき生き物探し」のほか、「ノルディックウォーキング」や「カヌーで水辺の生き物観察」等の園内外でスポーツレジャーに親しんでもらえるイベントを試験実施する等、来園者のニーズを汲み取りながら、新規イベントの企画にも精力的である。

ビオトープ園外への出張事業については、コロナの影響はあったものの、前年度が28回に対し、令和3年度は50回と、回数は増加し、出張を通じて直接の来園につながったケースも数件あった。

環境局環境監視課が実施する市内小学校への出張授業では、講師も務め、北九州市の自然環境や生物多様性を題材とし、その中で響灘ビオトープを紹介するとともに、他施設のイベントに出展しビオトープをPRする等、外部からの取込みも図っている。

【開催イベント：抜粋】

項目	開催時期	内容
参加者募集 イベント	通 年	クラフト・標本作成・図鑑作り
	毎 月	観察会（野鳥）
	4月～5月	ベッコウトンボツアー
	7月17日、10月16日	カヌーで水辺の生き物観察
	7月17日	ライトトラップ&星空観察
	1月30日、2月11日	ノルディックウォーキング
集客 イベント	7月～8月	池に入ってワクワク生き物探し
	10月9、10日	草原でどきどき生き物探し
	10月1～31日	アサギマダラスタンプラリー
	10月～1月	野鳥スタンプラリー「ラブ・バード・ラリー」
	10月2～10日	開園9周年イベント「かくれた生き物を探せ！」
園外 イベント (出張ビオ トープ)	8月～11月	出張授業（計17校実施）
	4月、3月	響灘緑地主催野鳥観察
	6月10日	スラバヤ工科大学 WEB 講話
	7月31日	自然講演会「池の水を抜いて分かる世界」出展

7月31日、8月1日

エコタウンまつり出展

③ “複数の施設を一括して管理する場合”には、該当しない。

④営業・広報活動

イベントだけでなく、野鳥の子育てや珍しい渡り鳥等の情報について、市政記者クラブへの投込み等を積極的に行い、合計16件報道機関で取上げられている。

テレビ番組「緊急SOS！池の水全部抜く大作戦」の撮影では、生き物の捕獲や同定に協力し、響灘ビオトープが紹介された。

なお、従来の夏季、冬季のチラシや市政日より等紙媒体での情報発信に加え、Twitter及びYouTubeでイベント情報や園内の様子等日常的に発信する等最新情報の提供に努めている。

【報道で取上げられた件数】（単位：件）

媒体	新聞	雑誌・機関紙	テレビ	ラジオ	計
件数	7	1	8	0	16

(2) 利用者の満足度

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

①利用者アンケート

コロナ対策として密を避けるため、前年度に続き積極的なアンケートの声掛けを行っておらず、回答数は84（前年度58）と少なかったものの、「施設の利用」、「展示物」、「スタッフの対応」及び「ガイドツアーの内容」の全ての項目で、100%近くの高い評価を得ている。

【アンケート結果（%）】

	施設の利用		展示物		スタッフの対応		ガイドツアーの内容	
	㊦	㊧	㊦	㊧	㊦	㊧	㊦	㊧
H30	98	2	100	0	100	0	100	0
R1	99	1	99	1	100	0	100	0
R2	100	0	98	2	100	0	100	0
R3	100	0	99	1	100	0	100	0

【評価】㊦：良かった、まあまあ良かった、㊧：あまり良くなかった・良くなかった

②利用者意見の把握・反映

指定管理に係るアンケートだけでなく、イベント毎のアンケートや利用者との会話の中で、意見や感想を把握するように努めている。

また、「お客様要望およびヒヤリハットシート」や「お客様ご意見手順書」を作成することで、職員間で利用者の意見を共有し、改善に努める等、その後の施設運営に反映・対応できるような仕組みを構築している。

なお、利用者意見の反映として、車いすでも野鳥観察を行いやすいような設備の改善や展示物の英語表示の増設を行っている。

③苦情対応

真摯かつ丁寧な対応を行っており、トラブルは確認されていない。直ぐに解決できない場合でも、管理責任者に速やかに引継ぎを行う等、苦情対応を行う体制を整えているほか、対応及び利用者の満足度向上を目的として、職員間で業務改善会議を行うようにしている。

④利用者への情報提供

響灘ビオトープ HP や SNS を活用し、その時にビオトープで見られる生きもの情報やイベント情報を随時発信している。また、メールマガジン登録者に対しイベント情報をメール配信する等、利用者サービスの向上に努めている。メールマガジン登録者はイベント実施等の際に数を伸ばしており、登録者数は 361 人（令和 4 年 3 月現在。前年度比 86 人増）となっている。

⑤その他サービスの質の維持・向上

広い園内をネイチャーセンターからライブで観られる高画質カメラ・モニターを設置しているほか、園内に生息している生き物についてクイズで学べる掲示物を新たに設置し、クイズの問題は季節毎に変更している。

また、災害時の活用も想定した無料の Wi-Fi サービスを導入する等、常に利用者サービスの向上に努めている。

【サービスの質の維持・向上の取組み一覧】

	取組み名	備考
ハード面	4Kカメラ・モニターの設置	見晴らし台に4Kカメラを設置し、ネイチャーセンター内でライブ映像を放映
	キッズスペースの設置	幼児向けの本や遊具等を展示スペースの一角に設置
	園内掲示（クイズ）	園内に生息する生き物についてクイズで学べる掲示物を設置
	無料Wi-Fiサービス	お客様向けにネイチャーセンター内に導入。災害時にも活用。
ソフト面	塩飴の無料配布	夏季（6月末～9月）に配布

赤ちゃんの駅登録	乳幼児を抱える保護者の来園を促すために登録
「まちなか避暑地」「まちなか暖らん」登録（継続）	ていたんポイントの配布

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

①経費の効率的な低減

支出の多くを占める人件費の削減策として、年間を通じた変形労働制の採用（労働時間の柔軟な調整）や、業務のマルチタスク化（業務の兼務による柔軟な運営）等に取り組んでいる。光熱水費については、猛暑の影響等により電気の使用量が増加したものの、維持管理費の抑制のための電力契約の切替え（令和2年11月）により、料金は前年度を下回っている。また、閉園後の点検実施、使用量・料金の職員全員での共有等を行い、金額の削減だけでなく省エネルギーを意識した運営を行っている。

②③経費が最小限となる工夫、経費の効果的、効率的な執行

除草等の園内の植生管理、除草やイベントのための池の水位管理等については、外注に頼らず職員自らが対応するため、トラクターの年間リースや除草機を購入することにより、年間を通じて計画的に対処している。また、施設の高寿命化と修繕に係る費用の削減のため、法定点検の他に独自の点検表を元に、職員で日常的な点検を実施する等効果的・効率的な経費の執行に努めている。

【指定管理料（千円）】

指定管理料	H30 (前指定管理者)	R1	R2	R3
予 算	44,293	42,167	42,372	42,543
決 算	44,293	42,167	42,372	42,543

【総事業費（千円）】

総事業費	H30 (前指定管理者)	R1	R2	R3
予 算	45,378	42,641	42,837	43,037
決 算	44,838	42,706	42,760	42,903

【光熱水費（千円）】

うち光熱水費	H30 (前指定管理者)	R1	R2	R3
予 算	1,067	1,252	1,300	1,264
決 算	1,154	1,256	1,345	1,396

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。

【所 見】

①収入を増加させるための取り組み

前年度と比較すると、来園者総数は増加しているものの（+5.9%）、有料利用者数は減少しており（-7.0%）、収入も減少となった（-1.5%）。中学生以下や団体の利用はやや回復傾向にあるものの、夏休み期間の臨時休園等のコロナの影響を受けて、有料利用者の増加には至らなかったと考えられる。

利用料金収入が減少した一方で、チュウヒの保全や園の魅力発信のため、環境省の「生物多様性保全推進交付金」や、市港湾空港局の「みなとや海辺の活動助成金」等の外部資金獲得に積極的に挑戦している点は評価できる。

【有料利用者数（人）】

区 分			利用料金（円）		来園者総数（人）				
年 度			H30	R1～	H30	R1	R2	R3	
有料 利用 者数 (人)	大 人	個 人	一 般	100	100	2,565	2,328	2,225	2,041
			年長者	無料	30	1,983	456	333	335
		団 体	一 般	80	70	36	238	57	92
			年長者	無料	20		26	6	0
	年間 定期券	一 般		400		192	83	79	
		年長者		120		148	76	61	
	小中 学生	個 人	50	無料	498	2,426	1,772	1,626	
		団 体	40	無料	117				
合 計					5,199	5,814	4,552	4,234	
来園者総数					16,061	19,784	11,879	12,576	

【収入内訳（千円）】

収 入		H30 (前指定管理者)	R1	R2	R3
入場料	予算	790	285	295	305
	決算	288	358	279	260
自主事業収入	予算	228	165	160	165
	決算	245	136	102	89

その他	予算	13	24	30	24
収入	決算	11	42	7	12
計	予算	1,031	474	485	494
	決算	544	536	388	361

※自主事業収入：自動販売機売上、主催イベント参加料（材料費）

※その他収入：講義室使用料、映像設備・音響設備使用料

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容等）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

[所見]

①合理的な人員配置

変形労働制を採用し、年間の休暇日数を確保しながら、季節により繁忙・閑散期に応じた人員配置を実施している。また、業務のマルチタスク化や、共同事業体による運営会議のウェブ開催等を取り入れながら、人的資源が限られる中で適切な管理運営を行っている。

②職員の資質・能力の向上

これまで響灘ビオトープでの業務経験のある職員を継続雇用するとともに、新規採用も行い、職員間で細目にわたり情報共有・連携を行っているほか、職場内においてハラスメント講習や、暴力団追放対策に関する研修を実施している。

また、園内を良好に維持管理するための「ビオトープ管理士」の資格取得や、疾病や障害などの不測の事態に備えるための「上級救命講習」の受講、個々のスキルアップを図っている。

③地域や関連団体等との連携

◎ボランティア団体、教育機関、企業や環境団体との「協働」

ガイド業務の補助等の活動を行うボランティア団体「響灘ビオトープ愛好会」と協働し、希少種であるベッコウトンボの個体数調査、ジャンボタニシ等の外来種駆除及び野鳥観察会等、各種イベントを協力・連携し実施している。

また、水生昆虫調査や夏休みのイベント開催等における「北九州高校魚部」、ベッコウトンボ保全における「日本トンボ学会」及び野鳥調査や写真展等における「日本野鳥の会」等、様々な団体と協働している。

◎地域団体、青少年団体との「協力」

前述の「響灘ビオトープ愛好会」の新規会員募集の周知等の活動支援を行い、会員を対象に園内のボランティアガイドの育成にも努めている。

また、「明治学園高校」のジャンボタニシ飼料化及び「北九州市立大学」のジャンボタニシを活用した水質改善に関する研究の協力等、活動の場の提供や、「市立曾根東小学校」の校内ビオトープの保全協力等、園外での活動支援を通して教育機関と連携しているほか、市民センター等での講座の講師も多く務める等、自然環境学習拠点としての役割を十分果たしている。

「北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議」では、園内の動植物生息環境調査や植生管理について検討しており、委員の助言をもとに、チュウヒやベッコウトンボに配慮した除草等を実施している。

【地域や関係団体との連携一覧：抜粋】

	連携先	取組み名
環境団体	響灘ビオトープ愛好会	各種生息調査関係
	日本トンボ学会	ベッコウトンボ保全
	日本野鳥の会北九州支部	野鳥調査、写真展協力
	若松イオンチアーズクラブ	活動の場の提供
教育機関	市丸小学校	ガシャモクの生体展示
	曾根東小学校	校内ビオトープを活用した環境学習
	若松中央小学校	校内のグリーンカーテンづくり
	北九州高校魚部	水生生物昆虫調査、展示協力等
	明治学園高校	ジャンボタニシの飼料化研究
	北九州市立大学	ジャンボタニシの水質改善研究
企 業	ブリジストン北九州工場	ジャンボタニシ拾い (コロナ感染拡大のため中止)
	中村製作所	ジャンボタニシ捕獲機開発
行政機関	環境局環境監視課	生物多様性を題材とした出張授業
その他	福岡県営中央公園、曾根東臨海スポーツ公園、ギラヴァンツ北九州	野鳥スタンプラリー「ラブ・バード・ラリー」
	北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議	生息環境調査、希少種保全

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 施設の利用者の個人情報を守るための対策が適切に実施されているか。
- ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。
- ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。

⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所 見】

①個人情報の保護対策

個人情報は、外部とは接続できないサーバーに保存している。市個人情報保護条例に加え、「特別個人情報社内取扱規程」を共同事業体独自に策定するとともに、「個人情報取扱事業者保険」にも任意で加入している。

②平等利用に関する配慮

親子連れでも来園し易いようにキッズスペースを設置するとともに、車いすの方が利用しやすいように野鳥観察窓の改修を行う等、ユニバーサルデザインにも配慮している。

また、展示物の英語表示の増設や外国人来園者に対する英語でのガイドツアーも実施している。

③“利用者が限定される施設”には、該当しない。

④施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容

共同事業体独自の「経理取扱規則」により、適切な予算管理運営が行われている。

⑤安全対策

コロナ対策においては、「北九州市感染症対策会議」の決定事項を適宜確認するとともに、施設内の定期的な換気や消毒のほか、「イベント開催時のチェックリスト」作成を行いながら、施設運営や講座実施している。

熱中症対策としては、スポーツドリンクや塩飴、冷却剤等を準備しているほか、園内のエントランス前に休憩用テントを設置している。

また、園が海岸近くにあるため、風速 15 メートル以上の際は入園の一時中断の措置を行う等独自の「危機管理マニュアル」に則った対応を行っている。

⑥危機管理体制

防災総合訓練を実施し、避難経路、避難誘導方法の確認を行うとともに、独自の「危機管理マニュアル」を策定し、万が一のケガや事故発生時は「事故・怪我発生報告書」に記入の上、職員及び共同事業体で情報共有を図り、対策の協議・実施ができる体制を整備している。

⑦事故発生や非常災害はなかった。

【総合評価】

【所 見】

前年度に続き、コロナ対策に伴う行動制限の影響を大きく受け、来園者数及びエコツアー利用者数については要求水準を下回る結果となった。一方で、適切なコロナ対策を行い

ながら、主催イベントを積極的に実施し、市内の野鳥関連施設と連携したスタンプラリー「ラブ・バード・ラリー」や、草原に入って生き物を観察する「草原でどきどき生き物探し」等の新規の企画も行っている。また、夏場の親子連れの来園を促す「池に入ってワクワク生き物探し」は大変好評であり、本施設の設置目的の一つである自然環境学習拠点施設としての役割を十分に果たしていると評価できる。

利用者アンケートについても、昨年度同様、全ての項目で高い評価を受けており、利用者目線にたった運営が評価されていると考えられる。

本施設の管理運営業務は、通常の施設管理に加え、園内の貴重な自然環境の保全や生物多様性を確保するための湿地保全や植生管理等特殊な維持管理が必要である。園内には希少種であるチュウヒが飛来し、繁殖行動を妨げないように注意深く管理に努める必要がある中、草地除草の計画的実施等工夫を凝らし、効果的に保全に取り組んでいる点が評価できる。

経費の低減については、変形労働制の採用、業務のマルチタスク化による人件費抑制、職員自身での草刈りや水抜きといった管理業務の内製化による外注費削減、新電力への切替え等に取り組んでいる。チュウヒ保全や園の魅力発信のために、環境省の「生物多様性保全推進交付金」等の外部資金獲得にも積極的な姿勢で、効果的な予算運用に努めている。

また、幅広い団体と協働・協力している点も評価できる。これまでと同様に外来種駆除や希少種保全で環境保全団体や企業等と綿密な連携を図る一方、環境学習や地域の魅力発信等で新たな連携に取り組む姿勢が見える。

このように、ビオトープ園内の貴重な自然環境保全の確保を的確に実施するとともに、自然環境学習拠点施設という響灘ビオトープの設置目的を踏まえた管理運営が適切に実施されているものと認められる。

[今後の対応]

令和4年度は響灘ビオトープ10周年を迎えるため、コロナ対策を十分行いながら、更なる響灘ビオトープの魅力発信と要求水準達成に向けた取組みについて、引き続き積極的に実施してほしいところである。

SNSに有効活用等を通じて、利用者のニーズを汲み取りながら、自然環境学習の場としての役割を果たせるよう、今後も生物多様性に配慮した園内管理を行うとともに、自然環境の保全について学ぶ場を提供する施設運営を期待したい。